令和６年度

長和町教育委員会の点検・評価報告書

（令和５年度事業）

令和６年１２月

長 和 町 教 育 委 員 会

１、はじめに

教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果していくため。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２６条の規定により、毎年、権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行うこととされています。

本町教育委員会では、法の趣旨を踏まえ、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、住民に公表しております。

点検・評価にあたっては、決算審査時に提出する町政白書に基づいて、令和５年度の主要な施策や事務事業の取組みについて点検評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々のご意見を頂き、客観性を備えた報告書として作成しました。

皆様にこの報告書をご覧いただき、教育委員会の取組に対するご意見を頂戴しながら、施策の一層の充実を図って参ります。今後も更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和６年１２月

長和町教育委員会

２、教育委員会の開催状況

定例教育委員会は毎月１回開催するほか、必要に応じて臨時の委員会を開催しています。

・令和５年度実績　　定例教育委員会　１２回　　臨時教育委員会　１回

３、教育委員会会議内容

会議名等	期日	主な会議事項
４月定例教育委員会	４月４日（火）	・令和４年度卒業生の進路について ・令和５年度人事異動について ・令和５年度生涯学習講座・スポーツ教室について ・新学期以降の学校におけるマスクの着用について
５月定例教育委員会	５月 19 日（金）	・令和５年度各学校の運営について （長門小学校・依田窪南部中学校・和田小学校） ・令和６年度使用開始小学校教科書について ・令和５年５月８日以降のコロナ対応について
６月定例教育委員会	６月５日（火）	・令和５年度歴史遺産を活かした国際交流事業について ・県及び町教育委員会相互の任免及び人事に関する了解事項の取り交わしについて ・町ホームページへの問い合せについて （運動会に関する意見） ・第 18 回長和町民ゴルフ大会について
７月定例教育委員会	７月７日（金）	・議会６月定例会一般質問について ・小規模特認校就学特例制度について ・スポレク 2023 依田窪プールまつりについて ・ふれあい館　軒天井修繕と施設点検について ・Ｂ＆Ｇ海洋センタープールの利用について
８月定例教育委員会	８月３日（木）	・令和６年度使用小学校教科書採択について ・就学援助（準要保護）認定審査について ・佐久大学総合型選抜市町村制入学試験について
９月定例教育委員会	９月 11 日（月）	・長和町教育支援委員会の判断結果について ・議会９月定例会一般質問について ・国際交流オランダ・英国渡航報告会について ・第 66 回長野県市町村教育委員会研修総会について

10 月定例教育委員会	10 月 6 日（金）	・令和 4 年度決算について ・令和 5 年度 9 月補正予算について ・小規模特認校に関する保護者への説明と意見募集について ・人権擁護委員の推薦について ・教育委員会の諸行事について
11 月定例教育委員会	11 月 7 日（火）	・令和 5 年度全国学力テストの結果について ・令和 6 年度二十歳を祝う式（案）について ・ふれあい館祭りについて ・差別をなくす町民集会の開催について ・小規模特認校制度アンケートについて
第 1 回臨時教育委員会	12 月 4 日（月）	・長和町教育委員会委員の選任について ・教育長職務代理者の指定について
12 月定例教育委員会	12 月 4 日（月）	・小規模特認校制度意向調査について ・議会 12 月定例会一般質問について
１月定例教育委員会	1 月 9 日（火）	・小規模特認校制度意向調査中間報告について ・長和町教育委員会の点検・評価報告書について ・議会 12 月定例会一般質問について ・2023 年度　部落解放・人権政策確立長和町懇談会について ・令和 6 年おたや祭りと山車保存協賛について
２月定例教育委員会	2 月 2 日（金）	・令和 6 年度教育委員会関係当初予算案について ・小中学校の卒業式・入学式について ・小規模特認校制度説明会（長門小）について ・長和町映画上映会の開催について
３月定例教育委員会	3 月 11 日（月）	・小中学校の卒業式・入学式について ・議会 3 月定例会一般質問について ・小学校給食費の値上げについて ・男女共同参画住民意識調査結果について ・和田小学校参観感想について

４、点検・評価について

（１）対象事業

評価対象事業は、令和５年度主要施策の成果報告書（町政白書）に掲載された教育課関係の事業より抜粋して点検・評価の対象としました。

（２）評価の判断基準

評価にあたっては、対象事業ごとに現状と問題点、事業とその成果、今後の対策について検証を行い、総合的に自己評価を行いました。なお、評価基準は次のとおりです。

区分	内　容
A	成果が上がっている。　期待以上
B	成果がやや上がっている。　期待どおり
C	成果があまり上がっていない。　期待をやや下回っている
D	成果が上がっていない。　期待以下

５、点検・評価結果

◆学校教育係関係

番号	事務事業名	評価	備　考
1	教育委員会	B	予定どおりに開催されており、適切な時期に適正に審議がされた。
2	総合教育会議	B	適切な時期に、必要な内容が協議されている。
3	教員用住宅管理	C	老朽化により管理が行き届かない箇所がある。
4	高等学校通学費等補助	A	町独自の補助であり、手厚い支援がされている。
5	就学援助関係事業	B	町として相談支援体制が確立でき、適正な援助がなされている。
6	奨学金及び奨学金貸付運営委員会	B	前回コロナをはじめ急激な経済変動に対応する要綱の改正を行い、貸与要件を緩和したが、前年並みの貸与件数があった。
7	給食無償化事業	A	町独自で手厚い支援ができている。
8	新型コロナ対策事業	A	補助事業により衛生用品、備品が整備され感染予防が十分できた。
9	小学校空調設置事業	B	令和４年度繰越し事業で和田小学校ランチルーム空調国庫補助が採択された。
10	ＧＩＧＡスクール対応事業	B	教員向けの研修、生徒の授業での利活用を並行して実施した。授業への支援員の配置について、手薄な状況となってしまった。
11	通学路安全点検	B	全体的な通学路の点検により関係各所への対応の要望により、改善が今後図られる。
12	スクールバス運行事業	B	小中学校の児童・生徒に対し、町独自の手厚い支援ができている。
13	複式学級対応	B	関係者への十分な説明と検討により、スムーズな移行が図られ、順調に実施された。
14	小規模特認校就学特例制度の検討	B	保護者に説明会及び意向調査を行い、制度導入賛成が過半数をこえた為、令和７年度導入に向け準備を進める事となった。

◆文化財係関係

番号	事務事業名	評価	備　考
1	原始･古代ロマン体験館及び黒耀石体験ミュージアム運営事業･黒耀石鉱山展示室運営事業	A	縄文ブームや、新型コロナ感染症の収束による観光客数増加に伴い、個人利用者を中心に入館者数の増加が著しい。
2	史跡星糞峠黒耀石原産地遺跡保存整備事業及び発掘調査事業	C	年度内の第３期整備員会及び調査指導委員会の発足を目指したが、委員の選定にあたっての内部検討までの実施となった。
3	「黒耀石のふるさと」創生事業	B	新型コロナ禍対応のイベントにも、予想以上の参加者が訪れ、継続性が図れた。
4	日本遺産事業	C	広域型日本遺産活動については、地域単位の活動は維持されているが、新型コロナ禍により広域的な活動展開は低迷している。
5	歴史遺産を活かした国際交流事業	B	３・４期生合同で中断されていた訪英を実施した。また、オランダで実施したシーボルトコレクションの資料調査の成果などを紹介するパンフレットを制作した。
6	埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業	B	男女倉遺跡群の資料整理が順調に進んでいる。
7	町内遺跡詳細分布調査事業	B	県埋蔵文化財センターの支援を受けて、長久保地区と古町地区（一部）の調査を実施した。
8	町内遺跡確認調査事業	B	令和３年度に実施した古町・藤ノ木Ⅱ遺跡の資料整理（土器の復元・実測等）を中心に実施した。
9	長久保宿・和田宿文化財施設運営事業	C	コロナ禍の影響が長引くなか両宿場文化財施設ともに団体利用の減少が顕著。
10	中山道、長久保宿・和田宿保存整備事業	C	長久保宿旧本陣が史跡中山道に追加指定され、今後の復元整備事業に向け史資料調査を行う。歴史の道中山道災害復旧工事を継続して実施する。
11	長和の里歴史館・長和町文書館	B	搬入史資料の整理収納が概ね順調に進む。
12	町指定文化財補助･町歴史的景観保全事業補助	C	コロナ禍以降、伝統行事の規模を縮小する等、影響が長引いている。

◆社会教育関係

番号	事務事業名	評価	備　考
1	公民館生涯学習講座等	B	新型コロナ感染状況を勘案しながら日程変更、一部休止等の対応はあったものの事業実施はできた。
2	青少年関係事業	B	コロナ対策を行いながら、例年通り教室の開催ができた。
3	社会体育関係事業	B	コロナ禍の中であっても行えるイベントの計画・実施ができた。
4	社会教育関係施設整備事業	B	古町コミュニティ施設については、埋蔵文化財が確認される等新たな対応を迫られることがあり、完成が遅れたものの適正に進められた。 予算で計上した施設改修は実施できた。

◆人権男女共同参画係関係

番号	事務事業名	評価	備　考
1	放課後児童健全育成事業 （長門・和田児童クラブ）	B	事業が適正に処理できた。
2	隣保館・人権教育	B	差別をなくす町民集会を開催した。
4	男女共同参画事業	B	第２次男女共同参画計画の策定を実施した。
5	図書館運営事業	B	エコールの利用増進を図った。

６、評価対象事業の成果及び今後の対策（令和５年度町政白書より抜粋・要約）

◆学校教育係関係

事業とその成果	今後の対策
１教育委員会	
・令和５年度は、定例会を毎月１回、臨時会を３回開催した。	・教育施策に関する様々な事項について、定例教育委員会及び必要に応じ臨時教育委員会を開催し協議を行う。
２総合教育会議	
・令和６年３月に総合教育会議を開催し、学校施設や教育における情報化等の状況報告、協議を行った。	・教育に関する重大な施策や緊急の場合に講ずる措置、また教育大綱やいじめ防止対策など協議し、町長と教育委員会との連携を図る。
３教員用住宅管理	
・入居状況は年間入居７戸、空きが４戸であった。住宅使用料収入は 720 千円で、施設修繕に 496 千円を支出した。(電気温水器・給湯器他　経年劣化・凍結による故障)	・建物、設備が老朽化しており、今後も修理・交換等により対応を行っていくとともに、空き部屋等の状況も踏まえ町営住宅への移管また取壊しも含め検討していく。
４高等学校通学費等補助	
・令和５年度における助成件数は全部で 127 人、総支給額は 9,812 千円であった。区域別内訳は、丸子地区 33 人、立科地区８人、その他の地区 80 人、下宿・入寮等６人、区域外の中学校への通学者４人（総支給額は 468 千円)。	・本制度の周知を町広報紙等により行い、適切な事業の実施を行っていく。
５就学援助関係事業	
・就学援助(準要保護)費の支給者は全 17 名、総支給額は 208 千円であった。内訳は、小学校９人、中学校７人となっている。 　入学準備金の前倒し支給は、小学生１件 55 千円、の支出を行った。また、特別支援教育就学奨励費の支給者は３人、総支給額は 35 千円である。	・様々な事情を抱えた世帯も多く、非正規雇用など雇用環境や所得の伸び悩みが依然として変わらないことから、保護者への周知徹底、経済的な生活実態の把握に努め、低所得である家庭の支援をしていく。
６奨学基金及び奨学金貸付運営委員会	
・奨学金は高等学校及び高等専門学校の生徒は月額 25 千円、大学・短期大学及び専修学校の学生は月額 40 千円を無利子で貸与している。 令和５年度は５件の申請があり、審査の結果３件の貸与が決定した。令和５年度末の基金貸付中の額は 67,715 千円、現金残高は 51,565 千円である。	・申請件数の増加を目標に、今後広報活動の強化を図る。 （令和５年度の運営委員会において、委員より審査基準の緩和、地元に就職した者の償還免除などの提案が出ている)

事業とその成果	今後の対策
7 給食費無償化	
・食材費の支出は 195 名分 15,055 千円（40 名教員含む)、依田窪南部中学校へは 113 名分 7,451 千円、町外の小中学校へ通う児童生徒への償還払いは 6 名分 459 千円の支出を行った。和田小学校は食数減に起因する食材高騰等により 1 食あたり 20 円の材料費の値上げを行った。	・和田小学校の食数が少ない事から、食材納入業者の確保に苦慮しており、長門小学校と食材納入を共有するなど何らかの対策が必要である。 ・保護者の経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを生み育てることが出来る環境づくりを推進する為、給食費無償化を継続する必要がある。
8 新型コロナ対策事業	
・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手洗い石鹸・洗剤等衛生消耗品の購入、換気対策として両小学校に網戸の設置を行った。長門小 390 千円、和田小 280 千円 ・価格高騰支援の為、高校等通学費補助の対象者に一人あたり 2 千円の上乗せ補助を行った。事業費 2,746 千円　（区域外 84 千円）	・マスク着用、手洗い、うがい、消毒の徹底を継続する。 ・物価高騰対策の国庫補助が継続するようであれば、継続したい。
9 和田小学校改修事業　小学校空調設置工事	
・和田小学校（ランチルーム） 令和 4 年度　繰越事業	・令和４年度繰越事業の為、令和 5 年度に実施した。
10ＧＩＧＡスクール対応事業	
・ＧＩＧＡスクール対応、ＩＣＴ教育推進のため教員向けの研修を行った。ＩＣＴサポーターを配置し、相談支援体制を整えた。 事業費 2,525 千円（国庫補助 350 千円）	・令和 5 年度も教員用の学習端末の研修会を引き続き実施する。学習端末の授業への利用、家庭学習への利用について有効活用を進める。
12 通学路安全点検	
・全国における児童の交通事故被害を踏まえ、通学路の交通安全点検を実施した。	・交通安全点検の危険個所について、改善を継続し、危険個所の周知の徹底を図る。
13 スクールバス運行事業	
・小中学校のスクールバスの運行委託に加え、蓼科高校のスクールバスについても昨年度に引き続き運行業務委託を町で行った。（総額 31,927 千円）	・関係機関と協議し、適切なスクールバスの運行に努めていく。
14 複式学級対応	
・和田小学校において、教育課程や授業カリキュラムを考慮し 1・2 年生での複式学級を導入した。 児童の学習環境、生活環境に今後も配慮し、検証を行いながら、更に改善に努める。	・県基準の特別加配や町費の講師の採用により複式学級であっても効果的な学習ができるようにする。教員の配置に関する基準については、今後も国や県の動向を注視していく。

◆文化財係関係

事業とその成果	今後の対策
1 原始・古代ロマン体験館及び黒耀石体験ミュージアム運営事業	
・令和５年５月８日に新型コロナウイルスの分類が２類から５類に移行し、従来の運営に戻ることができた。コロナ禍を境に、入館者の内訳が大幅に変化、これまで総入館者数の半数以上を占めていた林間学校等団体が減少し、大型連休期間中に集中していた一般利用者が、年間を通して来館、結果的には令和４年度から大幅に入館者数が増加した。記念品や図書の売り上げも増加傾向。黒耀石体験ミュージアムも一般利用者を中心に来館者数が大幅に増加、開館以来最多となった。これまでは１日 250 名ほどが一般利用者の最大値であったが、500 名を超える日もあった。星糞峠の黒耀石鉱山展示室「星くそ館」は、４月 29 日～11 月 30 日までの約７ヶ月の期間で延 3,940 名の入館者を数えた。星くそ館及び遺跡見学目当ての利用者も多く、ミュージアムへの滞在時間増加に大幅に寄与している。	・初めて利用する学校団体や、一般向けのパックツアー団体などに対しては、相手に寄り添った丁寧な対応を心掛け、リピーター化に向けた対応を行う。 ・遠方の学校や、来館が難しい学校団体等に対してはオンラインを活用した体験学習の提供を提案し、新たな顧客獲得を目指す。 ・様々なコストの高騰に対応するため、適宜記念品や体験料金の見直しを検討する（入館料については令和７年度より改定）。
2 史跡星糞峠黒耀石原産地遺跡保存整備事業及び発掘調査事業	
・令和５年度の事業としては、国から作成を求められている文化財保存活用地域計画の策定も視野にした第３期整備委員会の発足に向けて、委員の選定などを内部で検討した。	・第３期整備委員会及び調査指導委員会の早期発足を目指す。
3「黒耀石のふるさと」創生事業	
・史跡公園の森林整備、黒耀石のふるさと祭りを実施。史跡公園整備は、県森林づくり支援金補助を受け、平成 25 年から遊歩道周囲の立枯支障木撤去による安全整備を継続し、遊歩道沿いの支障木や立ち枯れした樹木の伐採を行った。・事業費 180 千円：県補助 180 千円（全額：森林づくり推進支援金） ・令和５年度黒耀石のふるさと祭り入館者 390 名。事業費 167 千円	・森林整備は、星くそ館の利用促進を念頭に、環境整備と共に安全対策として長期的に実施していく。

事業とその成果	今後の対策
4 日本遺産事業	
長野・山梨の２県 14 市町村で構成される日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の活動は、令和６年度に予定されている認定に係る継続審査に向けた対応が中心となっている。各構成市町村・施設では独自に日本遺産をテーマにした企画展示や講演会などを行っており、連携の一環で協力をしている。令和５年度は山梨県立考古博物館で夏休み期間中に開催された企画展のイベントに合わせて出張体験等の協力を行った。	・日本遺産を構成する文化財の磨き上げと活用の方向性を検討し、新たな広域連携の取り組みによる活用推進を図る。
5 歴史遺産を活かした国際交流事業	
令和 5 年度は「長和青少年黒耀石大使」３・４期生 14 名のオランダ・イギリス渡航交流事業を 8 月 5 日から 15 日に実施した。オランダのライデン市ナチュラリス生物多様性センター訪問、シーボルト・コレクションの和田峠産含む黒耀石資料を見学、大使が同資料の計測を行った。イギリス、セットフォードでは、グライムズグレイブズ遺跡訪問、ティーンエイジヒストリークラブを対象に英語プレゼンテーションと石器づくりワークショップを開催した。セインズベリー日本藝術研究所とイングリッシュ・ヘリテイジの協力を得て、ストーン・ヘンジ訪問、長和町の星糞縄文黒耀石鉱山遺跡の紹介と石器づくりのデモンストレーションを行った。帰国後には、この調査結果を基にシーボルトとそのコレクションの黒耀石の頒布用パンフレット（日本語版・英語版）を作成し渡航報告会を開催。町民文化祭で展示とステージ発表、渡航交流事業の様子を動画にまとめ、町のケーブルテレビで町全体に放映し、活動の様子を紹介した。また本年度の渡航事業には町長が同行し、イギリス実行委員会委員であるセットフォード町長、ブレックランド議会議員及びノーフォーク州議会議員ほか、多くの関係者と再会し、交流の意義を再確認した（事業費 17,754 千円:自治体国際化協会助成金　2,500 千円、東芝国際交流財団助成金 1,750 千円、グレイトブリテン・ササカワ財団助成金 200 千円	・変動する国際情勢の中で、国際交流事業の大きな柱となる『長和青少年黒耀石大使』制度の意義と継承の在り方を再考し、小・中の一貫した英語教育と国際理解教育の気運醸成を目指す。 ・新たな研究成果も踏まえ、地域の歴史を世界的な視野から捉えなおし、その魅力を広く発信する。

事業とその成果	今後の対策
6 埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業	
・信州大学から寄贈を受けた信州ローム研究会の発掘資料の整理を、平成 27 年からおよそ 10 ヶ年計画で継続的に行っている。令和５年度は令和６年度の報告書刊行を目指し、分析データ等の整備と図版の仮組みを行った。	・10 ヶ年計画で整理作業を行ってきた男女倉地区の発掘資料は、黒耀石研究の発信源となった学史的な資料である。令和７年度の報告書刊行を目指す。
7 町内遺跡詳細分布調査	
・国・県の指導により、町全域を対象とした埋蔵文化財包蔵地図の作成を目標として、平成 26 年度より 10 ケ年計画で詳細分布調査を実施している。今年度は長久保地区と古町地区の一部を対象に現地踏査を実施し、新たな遺跡分布の情報を把握した。 埋蔵文化財発掘調査出土遺物整備事業 1,289 千円・町内遺跡詳細分布調査事業 6,412 千円 （計　7,701 千円：国庫補助 4,070 千円）	・地形の観察と併せて効率的な分布調査の実施と、山中に点在する遺跡の分布についての広域的な調査の着手を目指す。
8 町内遺跡確認調査	
・町内の開発行為等に伴う埋蔵文化財の保護業務として、令和３年度に実施した藤ノ木Ⅱ遺跡の報告書刊行に向け、出土した土器の復元や実測などの整理作業を行った。 事業費 3,242 千円（樅の木福祉会負担金 1,015 千円負担）	・町内遺跡確認調査による埋蔵文化財の適切な保存に努める。 ・記録保存として発掘調査が実施された標ノ木平遺跡と藤ノ木Ⅱ遺跡については、報告書刊行に向けて発掘資料の整理作業を行う。
9 長久保宿・和田宿文化財施設運営事業	
・長久保宿歴史資料館一福処濱屋利用者数 約 850 人（冬季間 12/1～3/末の一般公開は閉館） 長久保宿丸木屋利用者数 約 480 人（冬季間 12/1～3/末の一般公開は閉館） ・コロナ禍以降、団体の見学利用が減少　・長門小学校児童、南部中学校生徒の宿場巡り ・和田宿本陣ほか宿内文化財施設入館者数　3,562 人（冬季間 11/27～3/末は閉館） ・宿場祭りの復活とナワメマーケットの開催等により入館者増　・南部中学校生徒の宿場巡り	・両宿場の代表的な伝統的建造物については、保存整備に向けた所有者との協議を行うとともに、可能な物件は史跡中山道追加指定や国の登録有形文化財への登録を推進していく。町並み保存と活用の抜本的な対策が望まれるなか、地域おこし協力隊員の新たな視点による活動が注目されており、連携強化に努めたい。

事業とその成果	今後の対策
10 長久保宿・和田宿保存整備事業	
・永代人馬施行所屋根修理工事 事業費 3,014 千円（内国庫補助 1,507 千円） （実施設計委託料 1,210 千円　・工事費（屋根材茅）1,804 千円 ・史跡中山道（和田峠道）災害復旧事業　（令和４年度繰越分実施設計委託料 671 千円・令和５年度実施設計委託料 264 千円・被災 14 ヶ所の復旧工事にともなう実施設計業務） ・町指定文化財長久保宿釜鳴屋消防設備設置工事補助　843 千円 ・町歴史的景観保全事業補助（和田宿よろずや土蔵修理工事）812 千円	・国史跡中山道追加指定となった長久保宿旧本陣の保存整備を推進し、さらに、両宿場の伝統的建造物については、保存整備に向けた所有者との協議を行うとともに、可能な物件は国の登録有形文化財への登録を図っていく。
11 長和の里歴史館・長和町文書館	
・古町地区の旧家寄贈古文書等の整理収納。長久保宿本陣座敷棟の絵図、普請記録の調査。 ・玄関ドア修理工事 770 千円	・両宿に所在する近世文書は、長和の里歴史館・文書館への収納保管に向け個々の所有者に啓発を促し、収蔵主要文書は史料集として まとめ生涯学習講座や小中学校の教材としても利活用を図っていく。
12 町指定文化財補助・町歴史的景観保全事業補助	
・町指定文化財補助（山車保存補助ほか８件） 5,173 千円（内、各財産区繰入金 615 千円） ・町歴史的景観保全事業補助（和田地区久保神明社）554 千円 ・地域おこし協力隊（立岩和紙の保存伝承等 10 月１日から１名が着任し計２名） 活動費 1,762 千円　人件費 4,887 千円	・文化財の滅失や散逸を防ぎ、未指定を含めた文化財をまちづくりに活かし、地域一丸となってその継承を図るため、国が推奨する地域の文化財の保存・活用に関する総合的な計画（文化財保存活用地域計画）を作成し、国の認定を目指す。

◆社会教育係関係

事業とその成果	今後の対策

1 公民館生涯学習講座等

・生涯学習講座

講　座　・　教　室	参加者数	開催回数・期間
古文書教室	15 名	12 回（月 1 回）
籐細工教室	13 名	6 回（6 月～11 月）
郷土史を学ぶ会	14 名	12 回（月 1 回）
英会話教室	13 名	24 回（月 2 回）
ジュニア英会話教室	9 名	24 回（月 2 回）
バーニングアート教室	10 名	5 回（7 月～11 月）
長和町民大学	令和 5 年度休止	
長和写真教室	6 名	12 回（月 1 回）
ハイキングクラブ	21 名	1 回（7 月）
クラフトバンド教室	22 名	6 回（5 月～10 月）
ピラティス教室	17 名	16 回（6 月～1 月）
アロマ＆ハーブ教室	8 名	6 回（6 月～11 月）

・生涯学習の成果を発表する長和町総合文化祭は、4年ぶりに芸能発表を再開し11月3日、4日にかけて開催した。ながわスポーツクラブは、子ども達が運動する事を楽しみ、健やかな成長を促し、青少年健全育成に大きな成果を上げた。体育施設は和田湯遊パーク体育館、長門町民体育館を中心に、施設の老朽化が見受けられる為、年次計画を立て、計画的に修繕等を行っていく。令和5年4月より樅ノ木福祉会の多機能型事業所わくわくが長門町民体育館の一部を使い開所した。長和スポーツクラブ、一般利用など共生を図りながら適正な施設運営・管理が求められる。

2 青少年関係事業

・成人式は、二十歳を祝う式として令和 6 年 1 月 2 日に開催した。（対象者 39 名　参加者 32 人）

・ジュニアスポーツ教室

教　室	参加者数	開催回数・期間
少年野球教室	16 名	通年
サッカー教室	25 名	通年
バレーボール教室	6 名	通年
柔道教室	1 名	通年
剣道教室	7 名	通年
空手教室	9 名	通年
合気道教室	6 名	通年
バスケットボール教室	59 名	通年
ジュニアスキー教室	51 名	3 回開催 （ 1～3 月）
ゴルフ教室	5 名	8 回開催 （6～9 月）
ソフトテニス教室 （たけしスポーツクラブ主催）	14 名	通年
キッズダンス教室 （たけしスポーツクラブ主催）	14 名	通年

・一貫指導体制の必要性・高齢者の生きがいの場・競技種目の多様性に対応するため設立した「ながわスポーツクラブ」について、小・中学生を対象としたジュニアスポーツ教室の内容及び活動は充実してきている一方、高校生以上を対象とした事業については会員数の増加に向けて、新たな企画を考える。

今後は、いつでも・どこでも・だれでもが参加でき、種目、世代や年齢、技術等についての多様性を包含できる「総合型地域スポーツクラブ」の内容やあり方等について更に研究し、「ながわスポーツクラブ」の育成に取り組んでいきたい。

<table>
<tr><th>事業とその成果</th><th>今後の対策</th></tr>
<tr><td colspan="2">3 社会体育関係事業</td></tr>
<tr><td>・町民運動会の代替企画として町民スポーツ講演会を企画したが、コロナ禍により中止となった。
・社会体育関係事業
<table>
<tr><th>大会・イベント名</th><th>参加者数</th><th>開催回数・期間</th></tr>
<tr><td>プールで体を動かそう教室</td><td>6 名</td><td>5 回開催
(7 月～8 月)</td></tr>
<tr><td>第 18 回町民ゴルフ大会</td><td>64 名</td><td>6 月 25 日（日）</td></tr>
<tr><td>町民ハイキング</td><td>名</td><td>雨天中止</td></tr>
<tr><td>令和 5 年度町民運動会特別企画　長和ウォークラリー</td><td>30 名</td><td>9 月 24 日（日）</td></tr>
<tr><td>ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭
「ふれあいウォーキング」</td><td>共催</td><td>5 月 13 日（日）</td></tr>
<tr><td>ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭
「依田窪プールまつり」</td><td>名</td><td>天候不順中止</td></tr>
<tr><td>ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭
「青木村で遊ぼう」</td><td>－</td><td>9 月 10 日(日)</td></tr>
<tr><td>ｽﾎﾟｰﾂﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ祭
「スケート場まつり」</td><td>共催</td><td>12 月 17 日（日）</td></tr>
</table></td><td>・時間的な余裕がないことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大は、スポーツ及び運動の必要性を認識していても、実際には活動できない人の増加につながっている。
こうした状況を踏まえ、地域住民が気軽に参加でき、多様なスポーツを体験、また楽しめるような各種運動教室を開設し、住民の健康増進の実現を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="2">4 社会教育関係施設整備事業</td></tr>
<tr><td>・古町コミュニティセンター完成以降、地区を中心にして料理教室、懇談会、映画の試写会、講演会など幅広く住民に利用されている。
・古町コミュニティセンター指定管理料　2,190 千円（樅ノ木福祉会）
・和田コミュニティーセンター指定管理料 7,105 千円（長和町社会福祉協議会）</td><td>・住民が利用しやすい施設となるよう環境整備を行い、有効なコミュニティの場として更に活用されるよう努める。</td></tr>
</table>

◆人権男女共同参画係関係

事業とその成果	今後の対策
１児童館（児童クラブ）運営事業	
・長門児童クラブ 長門児童館で実施　クラブ登録者数　75 人 （延 6,694 人　1 日平均 27 人） ・和田児童クラブ　クラブ登録者数　17 人 （延 1,109 人　1 日平均 5 人） ・令和５年度放課後児童健全育成事業（長門、和田児童クラブ　事業費：17,361 千円、うち補助金国庫：2,475 千円、県費：2,475 千円） ・小学校の長期休暇時は、利用時間が長く児童数も増える事から、午前と午後それぞれ3～5名交代で対応した。（平日は5～6名で対応） アルバイトの大学生8人が、元気な児童達と一緒に駆け回って遊んでくれ大変助けられた。代替補助員を含むスタッフが全員で15名になり、勤務態勢の改善に繋がった。有資格者は長門３名から４名、和田１名から２名に増えた。 ・マンネリ化した状況では、トラブルの原因になるため、『モルック』や『大型オセロ』など、児童達に関心を持ってもらえるような新たな企画を実施した。また、気象予報士をお招きして「お天気教室」を開催した。雨の日は柔剣道場を利用することにより、狭い空間での接触に伴うトラブルを未然に防ぐ工夫をした。季節ごとに「繭玉作り」、「クリスマスクイズ大会」、「ハロウィン宝探し」等の行事を行い、児童達からは大変好評を得た。 ・訪問して頂く地域の方々との交流により児童達が、心温まる時間を過ごし情操教育となっている。（絵本の読み聞かせ、あゆみ会など） ・避難訓練は年２回実施した。火災や地震発生時、指示に従い素早く避難する訓練を行った。また、防犯訓練を実施し、不審者が来た場合の回避方について、児童たちと話し合った。 ・ネグレクト児童とその保護者との信頼関係を築け、母子共に成長した。	・安全確保の観点から、外遊びは施設の敷地内のみという事を徹底させる。外の見回りを徹底して危険箇所を確認する。和田児童クラブの施設利用については管理面にも配慮が必要であり、一層の注意を払う。 ・全国的に児童が関連する事件や事故が多い中、安全確保の観点からも支援員、支援補助員の充実が必要である。発達障がいなど配慮が必要な児童（注意されたことを理解するのが難しい児童）が増えている為、児童５人に対し補助員１人が理想と思われる。また、専門分野の先生に常時相談できる現場が望ましい。対応する支援員も安心できる環境整備が必要である。 ・高学年多動児童と低学年障がい児童がトラブルになると、怪我やいじめに繋がり易いので、３年生以上の高学年については、長門小学校の空き教室を利用できるよう学校側と協議していく。 ・施設修繕について、老朽化した設備の修繕（エアコン等）を進めていく必要がある。 ・8 時前来館や 17 時以降や閉館後の対応について、有料化を検討する。 ・放課後等デイサービスを運営する樅の木福祉会と、情報共有などの連携を深めていく。

事業とその成果	今後の対策
2 隣保館・人権教育	
・人権の花運動「提供事業」（4 月～10 月） 町内小学校を対象に、花を協力して育てる事を通じて、やさしさや思いやりの心を学ぶ中で、人権尊重思想を育む事を目的として、花の種・プランター・土等を配布（長門小学校、和田小学校） ・第 19 回差別をなくす町民集会（12 月 6 日） 講師：う～み　さん（シンガーソングライター） 講演:「じんけんコンサートあなたに会えてよかった」 集会宣言の採択、人権標語を会場内に掲示 ・分館長会人権研修（3 月 22 日） 分館長会議に合わせ分館長への人権研修を実施。 ・隣保館活動として開催した講座により住民交流の促進事業を行った。 フラワーアレンジメント教室　10 回 こども・おとなバレエ教室　各 10 回 ・ふれあい館まつり　11 月 11 日 飲食をしない等、規模を縮小する形で開催 78 名 講演：長野県水平社創立１００周年に寄せて 部落解放同盟長和町支部の活動の歩み 講師：部落解放同盟長和町支部 代表　西藤　栄二　様 ・日々の暮らしの中での身近な心配ごとや悩みごとに対し、住民が無料で相談を受けられる「心配ごと相談事業」を、長和町社会福祉協議会と共同で実施した。　毎月第 3 水曜日　10：00～12：00 会場　町内 4 カ所（長門老人福祉センター、和田コミュニティセンター、長和町役場、大門基幹集落センター）相談件数　35 件	・人間としての尊厳と基本的人権の尊重される社会を実現するため、引き続き人権教育・人権啓発活動を推進する。 ・あらゆる差別を早期に解消することを目的として、適切な施策を行っていく。 ・地域福祉の推進施設として、関係機関との連携を強化し地域に密着した事業、啓発活動に取り組んでいく。 ・インターネット等新たな媒体を利用しての差別事象などが発生する中で、国、県、関係団体と連携を密にしながら対策を講じていく。 ・研修会（リモート研修を含む）への出席、他地域での現状を知るためにも交流集会などへ参加することで、正しい知識と最新の状況把握に努める。

事業とその成果	今後の対策
3 男女共同参画事業	
・町民の男女共同参画に関する意識、意向等について把握し、施策の推進に役立てること、を目的とし、「男女共同参画に関する住民意識調査」を実施した。抽出600名（男性318人、女性282人）、回答数253件、回収率42.1%。 町ホームページにて調査結果を公表した。	・様々な分野での女性のチャレンジ支援、能力活用を促進し、地域の特性を活かした積極的な取り組みをするため、庁舎内各部署と連携を図りながら、男女共同参画推進委員会を活用して事業を推進していく。
4 図書館運営事業	
・上田市・東御市・坂城町・青木村・長和町内の 10 の図書館及び図書室から構成される上田地域図書館情報ネットワーク構成図書館（通称エコール）に加盟し、自館分を含め総蔵書数約 1,047,200 冊（R5 年度末現在）の図書を相互貸借出来る。 ・エコールに蔵書が無い本は、利用者の要望により県内図書館から相互貸借で取り寄せて貸出を行い利用者の便宜を図った。 ・広報に掲載されたお勧め図書などに対する利用者からの問い合わせがあり、来館された利用者の貸出率アップに繋がった。 ・インターネット予約サービスはスマートフォンの普及によりＷｅｂ予約利用者は増加している。読みたい本の有無や各図書館の所蔵状況がタイムリーに確認可能になり、今までカウンターでのみ手続き可能だったインターネット予約の申請や更新もスマホなどで変更可能になり更に利便性が向上した。 ・蔵書数等 当館蔵書数　18,200冊（R6年3月末現在） 新規図書購入数　308冊（事業費　549,715円） 新聞購入　2紙（信濃毎日新聞、東信ジャーナル） 逐次刊行物　8誌　月刊誌、週刊誌、季刊誌 ・利用実績 貸出冊数　6,426 冊、開館日数　274 日 1 日平均貸出冊数 24 冊、1 日平均利用者数 7 人	・図書館利用の促進を図るために、町広報紙、町ホームページ図書館コーナーを利用してその存在を広く町内外に知らせ、可能な限りリクエストにも対応する。 ・利用者のニーズに合わせた選書を行い、尚且つ、バランスの取れた蔵書構成を心がける。限られた書架スペースを有効に使うために、適時除籍を行い蔵書のリフレッシュ化に努める。 ・インターネット予約は、ネット環境が整っていればどこにいても予約可能な為、直接カウンターに来られた利用者の予約を優先する等高齢者に代表される情報弱者やインターネット利用に制限がある利用者への配慮を引き続き実施していく。 ・「デジとしょ信州」については、図書館に行くことなく、パソコン、スマホから直接電子図書を借りて読むことができ、期限が来れば自動的に返却される等、利便性の良さが期待できる。今後「デジとしょ信州」関連の小説や実用書の選書数の増加要望と図書館カウンターで新規登録の案内を進める。

７、外部評価

（１）学識経験者

（敬称略）

水出 一寛	元小学校校長（現 小学校講師）
竜川恵美子	長和町社会教育委員会　委員長

（令和６年度評価：令和５年度事業）

(2)主な意見等

◆学校教育関係

○高校へ遠距離通学になるため、本人や保護者にとって大きな問題になる。子育て家庭にとっては町内に居住するデメリットになっている。特に大屋駅など電車と接続する、利用しやすい公共交通機関の確保を行政主導でぜひお願いしたい。

○小中学校のスクールバス運行では、登下校時刻に合わせた確実な運行を今後もお願いしたい。

○給食の食材納入業者確保のためにも、和田小学校と長門小学校の給食献立を一本化したら、経費削減につながり予算確保にも有効ではないか。（今後、和田小学校の児童数及び食数が減っていくと思われるため）

○小規模特認校と複式学級対応とは、どうつながるのか。複式学級が増える中で、小規模特認校としての意義をどう出していくのか整理が必要。町内小学校などの今後の在り方と併せて検討が必要。

○令和5年度に国の特別臨時交付金で実施された高等学校通学費等補助について、一人あたり二千円の上乗せ補助の継続を検討されたい。

○通学路の安全点検において、町内での自動車運転者の法定速度遵守の徹底と、特に保護者にも安全啓発をすべきである。

◆文化財係関係

○国際交流事業に参加した人たちは、その後、どのような進路を選択し、この事業による成果がどうみられたのか、具体的に検証し公表してほしい。

○黒耀石のふるさと創生事業について、星くそ館へのルートをより歩きやすく、魅力的な環境整備を望む。

○星降る中部高地の縄文世界、日本遺産を構成する新たな広域連携の取り組みに期待する。

○中山道長久保宿の宿場としての景観保存・整備について、更なる事業展開を望む。

○町の伝統行事、祭りなど失われてしまわぬよう、映像として保存、記録をしてほしい。

○昨年度も提案したが、本町に関わる偉人について、資料を整理し誰でも閲覧できるようにして、もっと幅広くPRをしてほしい。（淀川茂重氏・福井康順氏など）

◆社会教育関係

○生涯学習講座について日程等、より参加しやすい工夫と充実を望む。

○昨年度実施した町民運動会特別企画「長和ウォーキング」は、町の魅力を再発見できる良い企画であった。今後も実施を計画してもらいたい。

○町民ゴルフ大会への参加者が多数いるので、シニアのゴルフ教室も開催されると良い。

○ジュニアスキー教室は地域資源を活かした長和町独自の取り組みで良い。

◆人権男女共同参画係関係

○児童クラブにおいて、長期休暇中に大学生アルバイトを採用していることは、子ども達にとても良い影響を生んでいるため、今後も継続してもらいたい。

○長和町の図書館は規模が小さく整備、拡充を望む。また本を貸し出すだけの施設ではなく、閲覧する学習室の環境など、図書館としての機能を充実した方が良い。

○昨年度も提案したが、図書館の日曜日開館は出来ないか。図書館利用者数の1日平均7人は少ないように思うが、利用者数を増やす観点からも、日曜日開館は改善策の一つになると思う。

○人権教育及び男女共同参画事業においては、行政や教育・福祉等に関わる者・企業経営者など、特に組織を束ねる役割（首脳的な立場）に就く人達の積極的な関与が必要不可欠です。
トップセミナー、リーダーミーティングなどに参加することにより意識改革を図り、牽引役としての力を養う取り組みが重要だと感じる。
行政において、組織トップ層を対象とした研修、プログラムの機会を設け、町全体の意識高揚につながる取り組みを実施してもらいたい。